

MUSASHINO^{Vol.110} *for* TOMORROW

巻 頭

標なき道をゆく

石毛宏典

元プロ野球選手・監督

卒業生インタビュー

偉大な先輩の背中を追って

堀 風翔

東京佼成ウインドオーケストラ ホルン奏者

海外音楽事情

コントラバスの グランドファーザー

ツォルト・ティバイ

本学客員教授

表紙：ルドルフ・ピールマイヤー(指揮)

July 2014
vol.110

標なき道をゆく

● 石毛宏典 (元プロ野球選手・監督) ●

1980年代から90年代にかけ、多くのスター選手を擁して黄金時代を築いた西武ライオンズ。その中心にいたのが、“ミスター・レオ”こと石毛宏典さん。40歳まで16年間にわたり現役生活を送り、引退後も独立リーグの立ち上げ、石毛野球塾での子供たちへの指導など、様々なカタチで野球界に貢献されています。野球人生を振り返り、現役時代のプレー同様に熱く語っていただきました。(2014年5月21日インタビュー、文責編集部)



石毛宏典 Hiromichi Ishige

1956年、千葉県生まれ。'75年、銚子市立銚子高校卒業。'79年、駒澤大学経営学部卒業、プリンスホテル入社。'81年、ドラフト1位指名を受け西武ライオンズ入団。'86年、シーズンMVP。'88年、日本シリーズMVP。日本シリーズ17試合連続安打は歴代1位。'95年、FA宣言し、福岡ダイエーホークスに移籍。'96年、現役引退。'97年、アメリカメジャーリーグのロサンゼルス・ドジャースへコーチ留学。'98年、ダイエー2軍監督に就任。'02年、オリックス・ブルーウェーブの監督に就任。'04年、(株)IBLJ代表取締役役に就任。四国アイランドリーグ設立。'07年、(株)ビーユーコーポレーション設立。石毛野球塾始動。'08年、城西国際大学客員教授に就任。

意地で続けた野球

小学校時代、単なる遊びで始めた野球。中学で野球部を選んだのも、一番遅くまで練習している部だからというのが理由だった。

「早く帰って野良仕事を手伝わされるのが嫌だったし、苦勞の多い母の辛そうな顔を見るのも嫌でした。市立銚子高校に進んだのも、先生の勧め。銚子で野球といえば銚子商業ですが、市立銚子は有望な生徒を集め、学校を挙げて野球部を強くしようとしていた時期。朝、始発で学校に行き、授業のあと日の暮れるまで練習して終電で帰る、そんな毎日でした」

3年生の夏、市立銚子は千葉県大会の決勝まで進むが、宿敵・銚子商業に敗れ涙を飲む。その年、ロッテからドラフトで指名を受けるが…

「野球で生きていく気はなく、就職活動の一環で訪問した企業に気持ち傾いていました。でも、県予選を視察していた駒澤大学の太田誠監督がスカウトに来られたんです。家の経済的な事情もあって最初は断ったんですが、熱心に誘われ、最後には兄貴が『そんなに才能があるなら、俺が働くからコイツを行かせてやってくれ』と親父を説得してくれたんです。駒澤大学時代は、文字通り野球漬け。授業にほとんど出られず、教員になる夢も諦めました。日々、寮とグラウンドの往復で、着るものといえばユニ

フォーム、ジャージ、パジャマだけでしたね」

そんな好きではなかった筈なのに、なぜずっと野球部に籍を置き、厳しい練習、時に理不尽な先輩後輩のタテ社会に耐えることができたのだろうか。

「私は今に至るまで、野球を好きになったことは一度もありません。ただ、理由は何であれ自分で決めた以上はやめられない。練習がキツイからやめる、体罰が嫌だからやめる、そんなのカッコ悪いし、みっともない。意地でしょうね」

東都大学リーグで6度のベストナイン、歴代3位の通算114安打という結果を残し、卒業時にはアマチュア球界の“超目玉商品”としてプロ球界から誘われたが、頑として動かず社会人野球の名門プリンスホテルへと進む。

24時間野球漬けの現役時代

「社会人野球で10年ほど選手をし、そのあと3～4年その監督をして最後は母校・駒澤の監督になる、そんな青写真を勝手に描いていました。それが、プリンスホテルに入ってから2年目、東京で開催されたアマチュア野球世界選手権大会の後、父親からのプロ入りの勧めもあり、悩みに悩んだ末、もしプリンスホテルと同じ西武グループの西武ライオンズに指名

されたらプロに行く、という結論を出しました。社会人生活2年間で西武という企業が好きになったからです」

ドラフトのくじ引きの結果、西武への入団が決まり臨んだ1981年のパ・リーグ開幕試合の対ロッテ戦。“マサカリ投法”の村田兆治投手から4打数3安打1ホームランと華々しくデビュー。この年、ルーキーとしては長嶋茂雄以来の3割を打ち、文句なしの新人王。以後、'94年まで西武に在籍し、リーグ優勝11回、日本一8回、個人としてはベストナイン8回、ゴールデングラブ10回、パ・リーグ&日本シリーズ MVP、パ・リーグの野手として初の1億円プレーヤーなど数知れない栄冠を手にした。これほどの実績がありながら「野球を楽しんだことはない」と言い切る。

「常にあるのは不安でした。不安を打ち消すには練習しかありません。練習中は不安という二文字は消えませんが、食事の時、寝る前、また不安に

なる。勝ったことも、ヒーローになったことも一瞬で終わり、また明日が来る。日本一になっても、すぐ来季のことを考えないといけない。現役時代は24時間ずっと野球に囚われている感じでした」

1994年、西武から森祇晶監督の後任監督を打診されるが、現役続行を希望してFA宣言。ダイエー・ホークスに移籍するものの、2軍落ちを経験するなど結果を残せないまま現役を引退する。

「仲間ができたのも、楽しい思い出ができたのも、それなりのお金が稼げたのも、すべて野球のおかげ。普通、40歳にもなって2軍に落ちれば、適当にやって解雇を待つのですが、私はお世話になった野球に不義理をしたくなかった。だから、監督に命じられれば『喜んで!』と2軍でも試合に出て全力でプレーしました。もし西武の監督オファーを受けていたら、などと他人はあれこれ言いますが、私の野球人生に全く悔いはありません」



球は技術を基本とするスポーツであり、技術とはカタチとフォーム。上手い人ほどスマートでスムーズです。そこには譲れない部分があります」

選手自身の意識改革や努力を訴える一方、指導する側の能力、心構えも大切だと説く。

「技術の本質が分かっていない人は、指導者には不適切です。本質からズレているのを個性だと思ってしまうような指導者の下では、選手は成長しません。相手を納得させる理論武装も必要でしょうし、それをカタチで見せることができればよりベター。教え子を思う情熱も不可欠です。そして時には叱ることも必要。最近では『褒めて育てる』ことが主流になってきています。それを否定しません。ただ、人間が自分のキャパシティを突破して成長してゆくには、厳しい環境、厳しい教育が必要じゃないでしょうか。褒めるだけでは、自分のキャパシティの中だけの成長にとどまってしまう。そうした面で、指導する側の怠慢を認めないわけにはいきません。冷静な判断のもと『正しいものは正しい、ダメなものはダメだ』と、上に立つ人間は声を大にして発信すべきです。指導者がブ

指導者の心構え

引退後、ロサンゼルス・ドジャースへコーチ留学。その後、ダイエーの2軍監督、オリックスの監督を務める。こうした経験から、選手の伸び悩みの理由の一端が次のような点にあると指摘する。

「どうして成長しないんだろうと思ひ、選手自身に自分の長所と欠点を述べさせてみました。そうしたら全くトンチンカンで、言うことは真反対。大半の選手がはき違えている。つまり、長所を伸ばさずに欠点を鍛えているわけです。きちんと自己分析して正しい努力をしない限り、上手くなるわけがありません。また、我流・自己流を個性と勘違いしている選手も多い。我流・自己流は故障につながるし、確率も高まっていきません。野



▲石毛さんのプロ初打席。村田兆治投手から見事にセンター前ヒット（1981年4月4日／川崎球場）写真提供：共同通信社



レなければいいんです。そしてもう一つ、最近コーチングという言葉が良く使われますが、その対象となるのは30歳以上で、10代、20代には教え導くティーチングが必要。それなくして幹はできません。幹がある程度できるまで、方向づけてやるのが指導者の務めだと思います」

スーツの似合う人間

石毛さんが“おやじ”と慕ったのが

故・根本陸夫監督。印象深いエピソードを伺った。

「根本さんが良く言っていたのは、シーズンオフにはサラリーマンの友達と一緒に飯を食えということ。お前たちはビニールハウスの中にいて、外が暑いのか寒いのか、雨が降っているのか風が吹いているのか分からないだろう。でも、彼らは一般社会の中で今を生きている、時代と共に生きている。それを教わって来い、と。野球バカになるな、一般常識を持て、

ということだったんでしょう。同じような意味合いで『スーツの似合う人間になれ』とも言われましたが、ユニフォームを脱いで実際にスーツを着るようになって漸く分かってきたような気がしています」

根本氏の次に監督に就任したのは、厳しい規律と管理で知られる広岡達朗氏だった。

「新人王を取った翌年、シーズン前の合同自主トレの時、私の守備を見て広岡さんの言った一言が『下手ですね』。最初は反発して口もききませんでしたが、他の選手へのアドバイスなどに耳を傾けるとイイこと言ってるんですよ。で、素直になって『監督、俺にも教えてください』と詫言を入れしました。それ以降、キャンプでも、遠征先のホテルでも、マンツーマンでボールを転がして基本を指導してくれました。広岡監督には『今は未熟者でも上手くなる。選手は変わる』という発想があり、そのためには指導者が付ききりで教えなくてはならない

❖❖❖❖❖ 音楽学部新人演奏会 ～平成25年度卒業生による～ ❖❖❖❖❖

平成 26 年 4 月 22 日 ヤマハホール



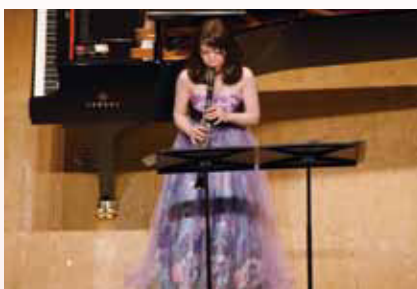
宮越悠佳(フルート)



矢沢まどか(ヴァイオリン)



久守あさひ(ピアノ)



井山夏実(クラリネット)



森田真伍(バス)



福井敬介(ピアノ)

という情熱をお持ちでしたね」

広岡監督の下、西武は初の日本一に輝く。

野球への恩返し

プロ野球から離れた後に石毛さんが立ち上げた独立リーグ、石毛野球塾は、長年お世話になった野球への恩返しだという。

「独立リーグの構想を具体化しようと思った頃、企業スポーツの衰退、サッカーJリーグの台頭、スター選手のメジャーリーグへの流出など、野球界は大変厳しい状況を迎えつつありました。しかしながら、プロを目指す若者はたくさんいる。彼らが夢にチャレンジする環境、受け皿を作りたい、またプロ野球OBのセカンドキャリア支援、地域活性化、野球を通しての人間啓発にも貢献できるのではないかと考えたのです」

構想を発表した時、山積する難題から周囲はその実現を疑問視した。

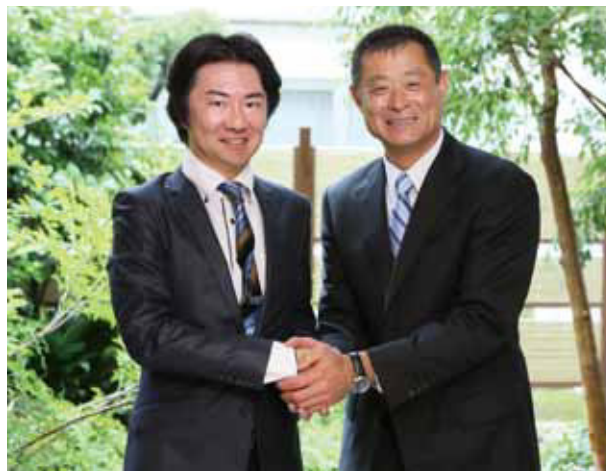
だが、2005年4月29日、日本初の独立リーグ・四国アイランドリーグは産声を上げた。

「いま考えてもすごいエネルギーだったと思いますね。なぜあれほど頑張れたのか、それは自分の夢や欲じゃなかったから。世のため人のため、というほうが頑張れるような気がします。何かを始める時、打算的に考えてやるのもアリでしょう。でも、明日がどうなるか分からないこの時代、先が分からない標なき道を歩むのも面白いんじゃないかと思うんです」

最後に、野球選手と同じように日々練習に励む音大生に向けてのメッセージをいただいた。

「30歳を過ぎたある時、相田みつをさんの『やれな

かった やらなかった どっちかな』という短い詩に出会い、感銘を受けました。それからは練習が終わった後、『俺は今日一日、やれなかったのか、やらなかったのか、どっちだ』と自問自答しながらグラウンドを去るようになりました。頑張ったのか、手を抜いてしまったのか、自分自身に誤魔化しは効きません。音楽を志した原点を忘れず、日々を悔いなく過ごして欲しいと思います」



▲ 本学 福井直昭教授と武蔵野音楽大学にて

✧✧✧✧ 大学院修士課程新人演奏会 ～平成25年度修了生による～ ✧✧✧✧

平成26年5月13日 ベートーヴェンホール（江古田キャンパス）



佐藤智基(打楽器)



井出壮志朗(バリトン)



野上 剛(ピアノ)



塚村 紫(ソプラノ)



青木佑磨(ピアノ)

卒業生インタビュー

偉大な先輩の背中を追って

● 堀 風翔 (東京佼成ウインドオーケストラ ホルン奏者) ●

アマチュアコンクールの熱の高さに加え、テレビで特集が組まれたり、漫画の題材になったり、このところ吹奏楽が脚光を浴びています。そんな吹奏楽界において、名実共に日本を代表する存在である東京佼成ウインドオーケストラに、昨年ホルン奏者として入団したのが堀 風翔さん。武蔵野出身者も多数在籍する同楽団への入団に至る経緯、現在の心境、学生時代の思い出などを伺いました。(2014年5月12日取材、文責編集部)

難しいから面白い

— ホルンを始めたきっかけは？

堀 テューバをやっていた兄の影響で金管楽器に興味を持ち、小学校からトランペットを始めました。中学



堀 風翔 Fuka Hori

巣鴨高等学校卒業。2011年、武蔵野音楽大学器楽学科卒業。第1回日本ホルンコンクール第5位入賞。ホルンを須山芳博、丸山勉、室内楽をK.ベルケシュの各氏に師事。シュテファン・ドール、ブルーノ・シュナイダー両氏のマスタークラスを受講。東京佼成ウインドオーケストラホルン奏者。

でも吹奏楽部でトランペットを吹いていたんですが、部員が少ないなどの事情でパート移動が頻繁に行われ、パーカッションも経験。最終的にホルンが足りなくなり、「じゃあ君、今日からホルンよろしく！」という顧問の先生の一言で、高校(中高一貫校)から今に至るホルンの道が決まったわけです。

— ホルンのどのようなところに魅力を感じますか。

堀 ホルンの特徴は、その音域の広さだと思います。3オクターブ以上の音域を使うのですが、それを全部コントロールするのは至難の業。楽器の構造上の問題もあって狙った音を出すのが難しく、息の早さ、吹き方、口の広げ方など、それらを全部コントロールして全て一致しない限り良い音は出せません。良い音を出すためには、地道に練習するのみ。とにかく難しい、でもそこに面白味を感じます。いつまでたってもなかなか上手いかわなくて、それが「もっとやれるはずだ」と自分を鼓舞するモチベーションになっています。

— 吹奏楽の一番の特徴は何だと思いますか？

堀 一言でいえば、演奏するジャンルの幅の広さではないでしょうか。ポップスだったり、スタンダードジャズだったり、クラシカルなものから現代曲まで、ジャンルは本当に多岐にわたっています。私の好みで言うと、もちろんポップスも楽しいのですが、やはり吹奏楽のオリジナル曲に惹かれますね。



▲ 武蔵野音楽大学ウインドアンサンブルの舞台 (2010年)

憧れの楽団の一員に

— 東京佼成ウインドオーケストラ入団に至る経緯をお聞かせください。

堀 武蔵野卒業後は、フリーランスの奏者として活動していました。その間、いくつかのオーディションを受けたり、コンクールに出場したりして、そうこうしているうち、友人に東京佼成ウインドオーケストラがホルンを募集していることを教えてもらい、オーディションを受け入団に至ったわけです。

— 入団試験はいかがでしたか。

堀 課題曲の多さと難しさに、とても苦戦しました。オーディションに参加したのは50数名で、試験は1次から3次まで。1次はピアノ伴奏で課題曲であるシューマンの「アダージョとアレグロ」を吹きました。3日後に行われた2次は、渡された小冊子の中のオーケストラスタディとブラスタディから、異なる課題要素が含まれたパッセージをいくつか吹くというもの。ブラスタディに関

しては、初めて吹く曲ばかりでした。2次と同じ日に行われた3次に残ったのは僅か4、5人。試験内容は2次と同じスタディ。試験直後に結果発表があったのですが、最初は何が起ったのかわかりませんでした。今回は準備も十分ではなかったし、まさか受かるとは思っていませんでしたから。今になって思えば、大学時代から地道に続けていた練習のおかげかなという気がしています。

— 入団後、気持ちのうえでの変化は？

堀 吹奏楽をやっている人間には憧れ以上の楽団ですから、自分がその一員になれるとは今でも夢のようです。それだけに、大きな看板を背負うというプレッシャーは大きいですね。実際の演奏でも、これまでにないプレッシャーを常に感じています。

— 現在の吹奏楽人気を肌で感じることはありますか。

堀 特に地方公演をしたあと、楽屋口で大勢の中高校生が待っているのを見ると、メンバーが彼らにとってのスタープレイヤーなんだということが良くわかりますね。サインをもらいに来たり、握手を求めたり。力をつけて、私もいつかそういう存在になれたらと思っています。

— 武蔵野の先輩も在籍しているとのことですが。

堀 先輩方が各パートにいらっしゃって、アドバイスしていただくことも多く心強いですね。偉大な先

輩であり、ホルンパートで一番年長の並木博美さんが今年定年を迎えられるということになり、その補充として私が入ったということになります。並木さんと一緒にいられる短い時間を大切に、できる限り色々学び取りたいと思っています。

武蔵野で学んだこと

— 武蔵野時代をふりかえって、一番思い出深いことは？

堀 楽しかったなあと思出すのは、1、2年次、入間キャンパスで過ごした何気ない日々のこと。練習室で個人の練習をし、飽きてきたら残っているメンバーでアンサンブルをする、毎日がそんな流れでした。オーケストラでハンガリーに行った海外演奏旅行も良い思い出です。外国に行くこと自体が初めてでしたし、見るもの聞くもの、すべてが新鮮でした。ブダペストに宿泊した際に見た、名所「鎖橋」の素晴らしい夜景は忘れられません。

— 武蔵野で学んだことは？

堀 師事した須山芳博先生には、様々な面で親身に指導していただきました。良く覚えているのは、あがり症をどう克服したらいいのか相談したときのこと。先生の師匠でありベルリンフィルの名ホルン奏者だったハウプトマンという方も、オーケストラでソロを吹いているときに手や足がガタガタ震えていたのです。ただし、ガタガタ震えながらも演奏は完璧だった、と。それを聞いたとき、そこまで行かないとダメなんだ、緊張するしないじゃなく、どんなにプレッシャーが掛かって緊張したときでも、最高のパフォーマンスができるようにならないとダメなんだという、演奏家の厳しさを思い知らされたような気がしました。

— 受けた授業で印象深いものは？

堀 一番面白かったのは、和声です



ね。今まで何となく触れてきた和音の仕組みについて、演奏者側からではなく、作曲・編曲など音を組み立てる側から確認することができ非常に刺激的でした。実際に先生がピアノを弾いてくださり、音の響きを身近に感じながら音の組み立て方、音のつながりを学べてすごくためになりました。

— 武蔵野のウィンドアンサンブルと東京佼成ウインドオーケストラ、両方を経験して、一番の差は何だと思いますか。

堀 武蔵野ではすごく長い時間練習して本番に臨みます。本番で良いパフォーマンスをするのですが、プロは僅か3、4日の合奏練習でそれ以上まで持って行ってしまいます。そこが一番の違いではないでしょうか。ただ私自身がそうであるように、武蔵野のスタイルでじっくり練習することにより、将来プロで通用するような基本は十分に鍛えられると思います。

とにかく行動しよう

— 吹奏楽団で活動するには何が必要だと思いますか。

堀 演奏する曲の多さということで言えば、譜読み能力は絶対に必要です。ホルンという楽器は、シンフォニックオーケストラで演奏する場合は読み替えが頻繁で大変なのですが、吹奏楽ではほぼ固定されて、その部分ではラクだと言えます。読みやすいといえは読みやすいのですが、圧



▲ 川辺真先生の和声の講義の後、先生を囲んでホルンの同級生と

倒的に音数が多く、そうした面で譜読みはかなり大変です。譜読み能力を高めるには、とにかく場数を踏む、楽譜をたくさん読むことに尽きると思いますね。こうした道を目指す人は、エチュードをたくさんやったり、オーケストラスタディをやったり、常に新しい譜面に触れるということを中心にすべきでしょう。武蔵野の図書館は、室内楽やホルンのソロを始め楽譜のラインナップが充実していますから、ぜひ活用すべきだと思います。

—— 武蔵野の後輩たちに一言メッセージを。

堀 人間は新しいことに尻込みしがちです。やらないほうがラクなわけですし。ただ、そこで敢えて何にでも積極的にチャレンジすべきだと思います。例えば、技術レベルの高くないバンドであっても、呼ばれたら面倒臭がらずに参加したらいい。そうしたチャレンジをどんどん重ねて、色々な音楽に触れ、色々な音楽

を体験して欲しいですね。そうすれば、自分の音楽にプラスになるものが絶対に見つかるはずです。4年間を無為に過ごさず、とにかく行動しよう、ということでしょうか。

—— 最後に今後の抱負をお聞かせください。

堀 文化芸術振興の一環として、年

に何か所か小・中学校をまわって体育館でフルのウインドオーケストラを聴いてもらうという活動をしています。こうした活動も含め、吹奏楽の楽しさを広めていきたいですし、日本の吹奏楽というジャンル自体を発展、振興させていけたらいいなと、非力ながら思っています。



▲ 東京佼成ウインドオーケストラ

© 佼成出版社

音楽の万華鏡 27

バーニー博士の音楽旅行

本年、没後200年を迎えるイギリスの音楽史家チャールズ・バーニー(1726-1814)は作曲家、オルガニスト、音楽の個人教授として活躍、ヘンデルのオーケストラで弦楽器を演奏したこともある。そして、1769年にはオックスフォード大学で音楽博士の学位を得た。自邸では音楽の集いを開き、この肖像画を描いたジョシュア・レイノルズ(1723-92)邸における文学のサロンにも出入りした。

やがて、音楽通史の執筆を志したバーニーは、貴族から得た資金や人脈を頼りに、資料収集のために大がかりなヨーロッパ音楽旅行を企てる。1回目は1770年6月にロンドンを出発、パリからリヨン、ジュネーヴを経てミラノ、ボローニャ、ヴェネ

ツィア、ローマ、ナポリなどのイタリアの諸都市を回り、またパリを経て同年暮れに帰国した。この旅行で最も大きな収穫は、後にモーツァルトとも関係する音楽理論家マルティーニ師とボローニャで会したことである。バーニーは師の膨大な蔵書に圧倒されながら、その『音楽史』執筆構想(全5巻)を聞き、すっかり打ち解けて話し込んだ。

1772年、バーニーはネーデルランド、ドイツ(フランクフルト、マンハイムを経てミュンヘンなど)、ウィーンに赴き、さらにプラハ、ドレスデン、ベルリン、ポツダムを回り、ハンブルクから帰国した。今回の半年の旅では、先ずウィーンに長期滞在してグルックのオペラ改革を知り、その本質を見抜いている。ポツダムではフルート奏者クヴァンツの知己を得た。高齢ながら健康で、とても大柄なこの音楽家は、フリードリヒ大王宮廷での宮仕えを語り、バーニーは大王のフルート演奏も聴くことになった。ハンブルクでは、J.S.バッハの次男C.Ph.エマヌエル・バッハが温かく迎え、



フォルテピアノを弾き、カタリーナ教会でオルガンも演奏、対位法の重要性について語り合っている。そしてこのように各地で聴いた音楽、音楽家との交友は、各国における『音楽の現状』として出版され(全2巻、1771、73)、さらに『音楽通史』(全5巻、1776-1789)へと結実していった。

寺本まり子(本学音楽学教授)

コントラバスのグランドファーザー

● ツォルト・ティバイ教授 (コントラバス) ●

長身痩躯のその姿に大きなコントラバスが良く似合う、ハンガリー出身のツォルト・ティバイ教授。1993年の着任以来20年以上がたち、本コーナーへの登場も2度目となる教授に、偉大な父上のこと、学生時代からの音楽遍歴、武蔵野に来て感じたことなどを語っていただきました。お話を伺ったのは、ティバイ教授と



ツォルト・ティバイ Zsolt Tibay

1993年より本学に客員教授として着任。レッスン、室内楽、オーケストラの指導にあたり、優秀な学生を多数育成。'49年ブダペスト生まれ。バルトーク音楽院でL.モンタークに師事。その後リスト音楽院で父のゾルタン・ティバイに師事。'70年よりハンガリー国立歌劇場管弦楽団に入団し、'76年より首席奏者を務める。その他ブダペスト・フィルハーモニー管弦楽団、ブダペスト・ウィンド・アンサンブル、ブダペスト祝祭管弦楽団のメンバーとしても活躍。'88年からは、定期的にオーストリア＝ハンガリー・ハイドン管弦楽団と共演するなど多数の演奏会とレコーディングを行う。特に'04年リリースしたCD「DOUBLE BASS RARITIES」は、ハンガリー放送やグラモフォン誌等で絶賛を博した。

リスト音楽院においても後進の指導にあたり、'10年には、ゾルタン・ティバイ生誕100周年記念国際マスターコースを開催。また練習曲の楽譜を出版するなど幅広い活動を展開。'95年から'00年まで東京藝術大学講師。現在、武蔵野音楽大学客員教授。

の共演も多く親交の深い本学・福井直昭教授です。

(2014年5月7日インタビュー)

名演奏家& 名指導者だった父

福井 まず、音楽の師匠でもあるお父様についてお聞かせください。

ティバイ 父ゾルタン・ティバイは、1930年代当時、私のもう一人の恩師L.モンタークと並んでハンガリーで最も著名なコントラバス奏者でした。彼らがラジオの生放送で演奏したり、ソロコンサートを定期的に行ったことで、ハンガリー国内においてコントラバスがポピュラーになりました。

福井 お父様もリスト音楽院の教授でいらっしゃったそうですね。

ティバイ 父は亡くなる1989年まで、44年の長きにわたって教授を務めました。その間に指導した大勢の教え子が、国内のみならず世界各地の名だたるオーケストラのプレイヤーになっています。こうした業績が評価され、1985年、父が75歳のとき、L.ストライヒャーが中心になって父のための記念演奏会がリスト音楽院で行われました。

福井 学生時代、錚々たる方々と一緒だったとか？

ティバイ バルトーク音楽院(高等学校)では、後に指揮者として有名になるアダムとイヴァンのフィッシャー兄弟を始め、本学教授のベルケシュ先生(クラリネット・指揮)やピアノのZ.コチシュ、D.ラーンキ、A.シフ

ら大成する多くの友人達と出会いました。

福井 リスト音楽院卒業後は？

ティバイ 卒業した1972年、O.クレンペラーの助手でもあったA.シモンの指揮、A.シフとZ.コチシュのピアノでバッハのピアノコンチェルトをフンガロトンよりリリースし、私もオーケストラのメンバーとして参加しました。そして1976年は、私にとって大事な年となりました。ハンガリー国立歌劇場管弦楽団の首席奏者に選ばれたのです。実は、オーディションの際、武蔵野とも縁の深いJ.ヤンドーにピアノ伴奏をお願いしました。その他、70年代から80年代の初頭にかけては、4つのカルテットとシューベルトやベートーヴェンなどの室内楽を定期的に演奏しました。

円熟期を迎えた 1980年代

福井 そして、いよいよ初来日のときを迎えます。

ティバイ 1983年、ブダペスト・フィルハーモニー管弦楽団の一員として来日しました。指揮は小林研一郎さんとA.コーロディ、ソリストはJ.シュタルケル(チェロ)とG.キシユ(ピアノ)でした。このときは、日本全国で13回の公演をしました。私は事前にガイドブックを買って情報を仕入れ、オフの日には東京や京都を散策。数々の寺院、中でも清水寺の美しさには感動しました。日本の音楽、映画、文学、習慣も非常に気に入りました。

ただ、このときは10年後より現在まで日本に居住するなどとは想像すらしませんでした。

さらにこの年、私はブダペスト・ウィンドアンサンブルに加わります。監督は現在も武蔵野の教授である、K.ベルケシュ先生でした。90年代の初めまで、この楽団のメンバーとして、ロンドンのウィグモア・ホール、パリのシャンゼリゼ劇場、ミュンヘンのヘラクレスザールなど世界中の有名なホールで演奏しました。そうした経験から感じることは、武蔵野の持つホールの音の素晴らしさです。ベートーヴェンホールもバッハザールもシューベルトホールも、その音響効果は有名ホールに匹敵すると言っても過言ではありません。

福井 ブダペスト祝祭管弦楽団に加わるのも同じ1983年ですね。

ティバイ そうです。1983年の3つめの大きな出来事が、同楽団の創設者のひとりとして関わったことです。ちなみに監督はI.フィッシャーでした。設立後10年間は、イースターと9月と12月、年3回の期間だけ集中的に活動していましたが、1993年からは年間を通して活動することとなります。ただ、武蔵野に行くことを決めていましたので、慰留されたものの退団を決めました。

福井 演奏家として精力的に活動されていた1980年代、特に思い出深い出来事は何ですか？

ティバイ 忘れられないのは、豪華客船に乗ってフランスからイタリア、ギリシャ、トルコなどをクルーズしながら停泊地でコンサートを開いたことですね。私はブダペスト・ウィンドアンサンブルのメンバーとして参加し、他にフルートのJ.ゴールウェイ、チェロのロストロポーヴィチ、ピアノのM.J.ピリス、T.ヴァーシャーリなどの名プレイヤーが出演。そこで私がサン＝サーンスの「動物の謝肉祭」を弾いたとき、共演者はピアノ・デュオのラベック姉妹、チェロのM.マイスキーでした。

福井 1988年には、ウィーンフィルとハンガリーの名門オーケストラのメンバーから構成されたオーストリア＝ハンガリー・ハイドン管弦楽団の首席奏者に就任されます。

ティバイ 同楽団が、A.フィッシャーの指揮でナクソスレーベルから出したハイドンの交響曲全集のレコーディングにも、武蔵野に来る直前まで参加しています。そして1993年になり、武蔵野へ来る直前、ニューヨーク



でM.アルゲリッチがピアノコンチェルトを弾いた演奏会にも出ました。

武蔵野で過ごした 20年

福井 最初に武蔵野からオファーを受けたときの感想をお聞かせください。

ティバイ 有名な音楽大学で指導できることを、非常に嬉しく感じました。と同時に、来日して驚いたのは、そこに国際的なレベルの音楽世界が存在していたこと。教授陣の顔ぶれも素晴らしいものでした。

福井 着任されて今年で21年目になりますが、その間に思い出すことは？

ティバイ 直昭先生と出会い、10年前に共演のCD「DOUBLE BASS RARITIES」(フンガロトン)をリリース

出来たのは大きな思い出のひとつです。準備段階で直昭先生と練習を重ね、様々な音楽的アイデアを与え



▲ ティバイ教授がブダペスト・フィルハーモニー管弦楽団の一員として初来日した公演パンフレットより(1983年)



ていただいたことに感謝しています。

福井 充実したレコーディングでしたが、苦労もありましたね。

ティバイ 録音の際、とにかくバランスをとるのが大変でした。ただ、グラモフォン誌が高い評価をしてくれたことで、苦労が報われました。

福井 先生には武蔵野のオーケストラでも、指導者としてご尽力いただいています。

ティバイ オーケストラに参加し、その中で指導できるのは嬉しいことです。とりわけ、1、2年の学生を対象としたオーケストラの指導に非常に意義を感じています。なぜなら大半がオーケストラ体験は初めてで、基礎、知識の部分でどのように理解してもらえるかは指導者次第。そこに関われることは、指導者冥利につきます。武蔵野で行っている、セッションごとのリハーサルを丁寧に忍耐強くやった後に、全体のオーケストラ・リハーサルに入るというシステム。これはブダペスト祝祭管弦楽団でも行っているもので、私は気に入っています。

福井 海外演奏旅行にも度々同行していただいていますね。

ティバイ ハンガリーに3度、ドイツに2度、同行しました。ハンガリー国立歌劇場やヘラクレスザールなど、かつて自分が活躍した会場で武蔵野のメンバーとして再び演奏できたことは非常に嬉しく光栄なことです。

福井 指導者としての一番のやり甲

斐、喜びは何でしょう？

ティバイ 教え子が日本を始め世界各国のオーケストラで活躍し、指導者としても成長してくれているのを目にするのは何より嬉しいですね。また長く教えていると、弟子の弟子、つまり孫弟子たちとオーケストラで共演することもあり、“コントラバスのグランドファーザー”といった感じです。

様々な芸術に親しみ 表現力を磨く

福井 最近のハンガリー国内の音楽事情について、少しお聞かせください。

ティバイ I.フィッシャー監督のブダペスト祝祭管弦楽団、Z.コチシュ監督の国立フィルハーモニー管弦楽団、国立歌劇場管弦楽団、この3つが現在もメインのオーケストラとして活動しています。これらに次ぐのが、音楽監督のベルケシュ先生に率いられてどんどん力をつけてきているジュール・フィルハーモニー管弦楽団です。

福井 交歓演奏を行うなど、本学ともゆかりの深いリスト音楽院に関するニュースはありますか？

ティバイ 昨年、改修工事が完了し、すべてが近代的に生まれ変わりました。特にセキュリティへの配慮は万全で、カードがないと学生も勝手に入室できないシステムになっています。私はほぼ毎春、帰国するたびにバルトーク音楽院、リスト音楽院でマスターコースを受け持ちますが、今回来日する直前の4月1日、新しくなったリスト音楽院でレッスンをしてきました。

福井 先生から見たコントラバスの魅力と難しさは？

ティバイ コントラバスはオーケストラでは一番低い音域を担当しますが、ソロや室内楽においては高い音域も弾きます。幅広い音域を旋律と

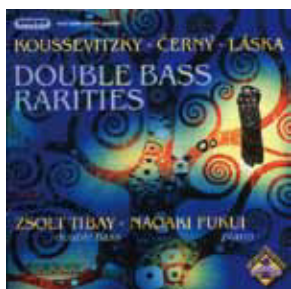


して歌わせることができる。多彩な役割を担うことができる。こうした表現力の豊かさが魅力だと思います。難しい点は、ヴァイオリンとの比較で言うと、楽器自体はずっと大きいのですが、弓はコントラバスの方が短いのです。当然、弓の引き返しが多くなり、レガートで弾くことが非常に難しくなります。さらに、楽器自体が大きいので半音の幅が下のポジションでも約7.5cmもあるうえ、弦が太くて固く、指板から高く浮いているため、押さえるのも音程を掴むのも大変です。

福井 最後に、武蔵野の学生へのメッセージをお願いします。

ティバイ 音楽は人類の文化において、最も美しく大切なもののひとつです。ソナタや協奏曲を演奏するにあたり、その時代の文学や美術、建築などを勉強することで音楽に対する洞察力が広がり、曲の解釈が深まります。つまり、技術的なものの外側に、表現に関わる大切なポイントがあると思うのです。武蔵野には充実した図書館を含め、勉強に適した環境が整っていますから、積極的に利用したら良いでしょう。

福井 本日は、どうもありがとうございました。



ティバイ教授が本学福井直昭教授と共演したCD「DOUBLE BASS RARITIES (HCD32284)」(フンガロトン、2004年)／コントラバスの珍しい曲を集めたもので、多くは世界初録音

始まりの季節の多彩な学園行事

満開の桜に彩られた4月、大学、附属高等学校、各幼稚園に希望に満ちた新入生を迎え、平成26年度が順調にスタートしました。

大学では、新入生歓迎会が開かれました。専攻クラス毎の交流会、セレモニーや会食と会は和やかに進行。続くバッハザールでは歓迎演奏会、各クラブ団体による個性溢れるPR活動が行われました。新1年生にとって、先生、先輩のあたたかな祝福は、今後の大学生活

への大きな励みとなったようです。

高校では、新緑まぶしい入間キャンパスのグラウンドで、体育祭が行われました。団体戦の綱引き、選抜対抗リレー、さらに新競技のパン食いラムネ競争など、熱戦が繰り広げられました。また、5月下旬、2年生の修学旅行が実施されました。初日には平和学習の一環として、広島国際会議場で被爆当時のピアノを使用したコンサートを行い、続く兵庫県の「人と防災未来センター」で阪神・淡路大震災での多くの教訓を学びました。大阪の、ユニバーサル・スタジ



オ・ジャパンでアトラクションを体験した後、最終日の京都では雅楽の体験・鑑賞と日本の伝統文化の美に触れ帰路に着きました。生徒たちにとって、貴重な体験がいっぱい詰まった旅行となりました。

一方、1、3年生は飯能市の景勝、名栗川溪流のキャンプ場へ。青空のもと飯盒炊爨を行い、工夫を凝らした手料理を楽しみました。

第一・第二・武蔵野の各幼稚園では、遊園地や広い公園へ春の遠足に行きました。自然の中で、園児達は元気いっぱい遊び、仲良くお弁当を食べて、笑顔が溢れる楽しい一日を過ごしました。



レクチャーなどに使用していた中ホール「モーツァルトホール」を全面的に建て替えるほか(約420名収容予定)、約100名収容のサロン風「リサイタルホール」やオーケストラ、ウィンドアンサンブル、大合唱用の各リハーサル専用ホールも完備し、総合的な演奏環境を構築します。

魅力ある最新のキャンパス誕生をご期待ください。

※設計施工は、東京スカイツリーを建設した株式会社大林組が行います。

LOOK at TOMORROW

REPORT ③ 江古田新キャンパスプロジェクト

新たな都心型キャンパスの誕生へ

これまでもご案内してきた2017年度にスタートする新キャンパスの設計は、駅から徒歩5分という好立地にありながらも閑静な住宅地に囲まれているという周辺環境を考慮して、地下1階に掘り下げられた中庭状の広場「サンクンガーデン(右図参照)」を中心に広がることを特徴としています。サンクンガーデンは、地下1階、地上1階の2つのフロアで校舎



と接続し、ロビーやレストラン、売店、学生ラウンジ、パウダールームのほか、図書館や楽器博物館など、キャンパス生活を彩る施設群が取り囲みます。この広場が、学生同士あるいは学生と教職員が行き交い、集い、新しい交流を生み出す場所として機能することで、新たな都心型キャンパスの姿を実現します。さらに広場を囲む形で最新設備を備えた教室群や、最適な音響環境を備えたレッスン室、練習室、合奏室、また会議室、展望ラウンジなどを含む、機能毎に分化した各棟が並びます。

また広場周りの賑わい空間から一歩離れた北側に、大中小3つのコンサートホールや各種リハーサルホールをまとめて配置します。「ベートーヴェンホール(1,085名収容)」は、内外から高い評価を得ている音響効果はそのままに内部が改修補強され、より使いやすいホールとして生まれ変わります。また室内楽や

松本美和子声楽公開講座

去る5月30日、松本美和子特任教授の声楽公開講座が、「日本人としてのベルカント唱法への取り組み方」をテーマに、本学モーツァルトホールで開催されました。

主にイタリアで活躍され、ベルカントの歌唱で聴衆を魅了している松

本先生の豊富な経験から、イタリア人が、イタリア語を話すポジションで自然に歌う「美しい声」の発声法を、骨格の違う日本人がいかに取り組むか、その実際が学生の実演を交えながら語られました。

イタリア歌曲、ヴェルディ、プッチーニ等のオペラアリアを題材に、口の開け方、声の響かせ方などを丁寧に指導をされ、「心が伝わる歌は、正しい楽器（体）の使い方を学ばなくては歌えない。その努力を続けてほしい」と締めくくられ、受講した学生らにとって、基礎となる発声の重要性を再認識した有意義な講座となりました。満員の聴講者は、最後まで興味深く熱心に耳を傾けていました。



MUSASHINO 掲示版

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル CD 最新盤の発売

武蔵野音楽大学では、ウィンドアンサンブル、管弦楽団合唱団のCDを多数リリースしています。この4月、ウィ

ンドアンサンブルの最新盤 CD「武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル Vol.18」(BOCD-7378)が、プレーン・ミュージックから発売されました。

本学ウィンドアンサンブルのために作曲され、2013年7月の定期演奏会が世界初演となったJ. ジルー『交響曲第4番「ブックマークス・フロム・ジャパン」』をはじめ、吹奏楽のオリジナル作品ほか全9曲が収録されています。(指揮：レイ・E. クレーマー / リチャード・K. ハンセン / リチャード・メイン) 是非、最新の“武蔵野サウンド”をお楽しみください。

お求めはお近くの販売店、または本学演奏部窓口でも販売しています(定価2,484円〈税込み〉)。



武蔵野音楽大学 楽器博物館所蔵の楽器を 「夕やけこやけ放送」に使用

本年4月1日より、埼玉県入間市が毎日夕方放送する防災無線「夕やけこやけ放送」に、本学楽器博物館所蔵楽器「石磬(せっけい)」が使われています。この楽器は、香川県坂出市の故前田仁氏が製作し、1986年に本学博物館に寄贈されたもので、坂出地方原産の「サヌカイト」を加工し

た「石のチャイム」です。澄んだ美しい音色を響かせ、本学のコンサートホールでも開演前のチャイムに使用しています。入間市にお出での際は耳を傾けてみてください。

● 表紙の顔



ルドルフ・ ピールマイヤー氏

ルドルフ・ピールマイヤー氏は、本学名誉教授ヨゼフ・ツィルヒ氏に師事し、2012年9月、武蔵野音楽大学管弦楽団ドイツ演奏旅行ではツィルヒ教授とともに指揮をしました。この度、本学客員教授として初来日し、本年9月に管弦楽団定期演奏会で指揮をされます。

ピールマイヤー氏は、ミュンヘン音楽・演劇大学にてピアノ、クラリネット、指揮を専攻し、1987年、国際ウェーバーコンクール(ワルシャワ)のクラリネット部門にて入賞。奨学金を得て、ベルリン・ドイツオペラが主催するオーケストラセミナーに参加した後、ベルリン交響楽団にてソロクラリネット奏者として活躍しました。その傍ら、指揮者ヘルマン・ミヒャエルの下で研鑽を積み、同大学主催のマイスターコースにおいて、レナード・バーンスタイン及びセルジュー・チェリビダッケの指導を仰ぎました。

その後、レーゲンスブルク劇場、スイス・ザンクト・ガレン劇場第一指揮者を経て、アウグスブルク・フィルハーモニー管弦楽団団長を務め、ベルリン・ドイツ交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、モーツァルトウム管弦楽団などに多数客演しています。1994年、バイエルン州振興賞を受賞。

近年では、マクデブルク歌劇場での「ウェルテル」(ジュール・マスネ)の初演、オスロ(ノルウェー)の国際歌劇場でのモーツァルトの「魔笛」の初演を指揮し、2011/12シーズンの幕開けを飾るなど、精力的に演奏活動を行っています。

※本学管弦楽団演奏会の詳細は P.14 をご覧ください。

武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、江古田新キャンパス建設基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここに芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名(五十音順)は、平成26年2月1日から4月30日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

【同窓生】 今倉隆三様 北 眞寿美様 小石 晋様 滝口智子様 深谷陽子様 和田れいな様 高友会一同様 昭和39年入学同期生一同様 昭和55年入学同期生一同様 スキー部50周年の会様 同窓会神奈川県支部よこすかむさしの会会員一同様

【在学生・同ご父母】 飯作盛志様 池ノ谷静一様 太田節雄様 金子朋之様 神山尚之様 菊池加代子様 佐藤美奈子様 鈴木正志様 瀬戸口直海様 高知尾明宏様 高橋冬彦様 高山勝行様 羽磨隆士様 二又茂明様 森 万里子様

【役員・教職員・一般・他】 石川 篤様 伊東京子様 伊藤のり子様 金井和美様 神田美方子様 岸田 譲様 北村淳子様 木村育子様 清野美佐緒様 熊倉功二様 黒瀬美奈子様 古池 好様 甲賀多重子様 高坂朋聖様 後藤基裕様 小林秀夫様 坂下 寛様 坂下裕子様 澤本恒夫様 清水直美様 鈴木亮子様 瀬上 正様 寺本まり子様 戸部 豊様 端地公美子様 林 孝治様 林 ナナ子様 原田知子様 平野邦夫様 福井直敬様 福岡敏彦様 藤井隆史様 前川慎一郎様 前原信子様 宮崎幸次様 村上直行様 (他に匿名を希望される方8名)

栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)

(順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)

- 旭日双光章受章 秋山 紀夫(昭和28年短期大学部卒音楽教育学科声楽専攻)
- 文部科学省 平成25年度教育者表彰受賞 富田 淑子(昭和30年大学卒ピアノ専攻)
- 平成25年度 岐阜県文化・スポーツ功績賞受賞 金澤 澄華(平成17年本大学院修士課程修了声楽専攻)
- International Competition "Young Virtuosos 2014" (ブルガリア)
ピアノ部門 グループIV 第1位入賞 犬飼 まお(大学2年次在学ピアノ専攻)
- 第19回 プレスト国際ピアノコンクール(フランス) カテゴリーY
ドビュッシー/フォーレ/ラフマニノフ部門 第2位入賞
前田 菜々子(平成22年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程修了)
- 平成26年度 奏楽堂日本歌曲コンクール
第21回作曲部門 中田喜直賞の部 優秀賞受賞
武藤 道子(平成25年大学卒声楽専攻 本大学院修士課程2年次在学作曲専攻)
第25回歌唱部門 奨励賞受賞 飯田 研良(昭和50年大学卒声楽専攻)
- 第16回 "万里の長城杯" 国際音楽コンクール 打楽器部門 大学の部 第2位入賞(1位なし)、審査員特別賞受賞 中林 恵子(大学2年次在学打楽器専攻)、ピアノ部門 大学の部 第5位入賞 赤尾 優梨子(大学2年次在学ピアノ専攻)、ピアノ部門 高校生の部 第2位入賞 乗田 晏妙(本高校2年次在学ピアノ専攻)、●第8回 セシリア国際音楽コンクール ピアノ部門 高校生の部 第3位入賞 當間 舞(本高校2年次在学ピアノ専攻)、●第5回 ジュラ・キシュ国際ピアノコンクール 高校生部門 第3位入賞 乗田 晏妙(本高校3年次在学ピアノ専攻)、●第26回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 全国大会 ピアノ部門 高校生の部 第4位入賞 市村 ひかり(本高校2年次在学ピアノ専攻)、奨励賞受賞 乗田 晏妙(本高校2年次在学ピアノ専攻)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

平成26年度 同窓会全国総会開催のお知らせ

平成26年度武蔵野音楽大学同窓会の全国総会が、来る8月5日(火)武蔵野音楽大学江古田キャンパスで開催されます。「江古田新キャンパスプロジェクト」に伴い、皆さんが学んだ校舎の姿が見られるのも来春までとなり、本年度の全国総会は江古田キャンパスで行うことといたしました。当日は17:00からベートーヴェンホール

で総会、記念演奏会、引き続き18:40からモーツァルトホールで懇親会を開催する予定です。

懐かしい思い出を胸に、皆様お誘いあわせの上げぜひご参集ください。

平成26年度7月～10月 公開講座・演奏会のお知らせ

ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル	7月 3日 18:30	ベートーヴェンホール (江古田)	¥1,000 (全席自由)
曲目＝ベートーヴェン (リスト編曲)：交響曲 第5番「運命」、ラフマニノフ：絵画的練習曲集 Op.33、39より、バラキレフ：東洋風幻想曲「イスラメイ」 他			
武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会	7月 8日 18:30	宮崎市民文化ホール 大ホール (宮崎県)	一般¥1,500 / 小・中・高¥1,000 (全席自由)
指揮＝ジェームズ・ランブレクト	7月 9日 19:00	iichiko グランシアタ (大分県)	一般¥1,500 / 小・中・高¥1,000 (全席自由)
曲目＝D. グランサム：舞楽	7月 11日 18:30	東京オペラシティ コンサートホール	¥1,500 (全席指定)
八木澤教司：「エディソンの光」～メンロパークの魔術師、P. スパーク：ダンス・ムーブメンツ P. A. グレインジャー：コロニアル・ソング、A. リード：アルメニアン・ダンス パートⅠ、2014年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲 より 他			
武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会	9月 6日 15:00	リンクステーションホール青森 (青森市文化会館) 大ホール	一般¥1,500 / 学生¥1,000 (全席自由)
指揮＝ルドルフ・ビールマイヤー	9月 8日 19:00	札幌コンサートホール Kitara 大ホール (北海道)	一般¥1,500 / 学生¥1,000 (全席自由)
ピアノ独奏＝本学学生オーディション合格者	9月 12日 19:00	東京オペラシティ コンサートホール	¥1,500 (全席指定)
久保慶恵 (大学3年) 6日、8日、12日	9月 13日 16:00	バッハザール (入間)	一般¥1,500 / 学生¥1,000 (全席自由)
田村友美 (大学4年) 13日	モーツァルト：ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 K.466、ベートーヴェン：交響曲 第7番 イ長調 Op.92		
曲目＝チャイコフスキー：幻想的序曲「ロメオとジュリエット」			
武蔵野音楽大学室内合唱団演奏会	9月 22日 18:30	ベートーヴェンホール (江古田)	¥1,000 (全席自由)
指揮＝栗山文昭、片山みゆき	曲目＝高田三郎：混声合唱組曲「水のいのち」、ブラームス：「Zigeunerlieder (ジプシーの歌)」Op.103 グレゴリオ聖歌：「死者のための典礼」より 他		
武蔵野音楽大学附属高等学校音楽科 在校生と新卒生によるコンサート	9月 29日 18:30	王子ホール	¥2,000 (全席自由)
エヴァ・メイ 声楽公開レッスン	9月 29日 18:30	ベートーヴェンホール (江古田)	¥1,000 (全席自由)
モーリス・クレール オルガン・リサイタル	9月 30日 18:30	ベートーヴェンホール (江古田)	¥1,000 (全席自由)
曲目＝J. S. バッハ：前奏曲とフーガ ロ短調 BWV544、J. S. バッハ：コラール前奏曲「おお、人よ、汝の罪の大きいなるを嘆け」BWV622 トルヌミール：「復活のいけにえ」によるコラール即興曲 他			
アルヌルフ・フォン・アルニム ピアノ・リサイタル 偉大なる遺産 ～ピアノ音楽の聖典～	10月 29日 18:30	ベートーヴェンホール (江古田)	¥1,000 (全席自由)
曲目＝モーツァルト：ピアノ・ソナタ 第16番 変ロ長調 K.570、シューベルト：ピアノ・ソナタ 第21番 変ロ長調 D.960 ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第29番 変ロ長調「ハンマクラヴィア」Op.106			

お問合せ ●武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部 TEL.04-2932-3108

※やむを得ない事情により、曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※チケットは武蔵野音楽大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/> でもご予約ができます。

平成26年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 夏期講習会のお知らせ

講習会名	実施期間	申込受付期間	会場
音楽大学受験講習会	第1期 7月28日～7月31日	7月1日～7月14日	江古田 キャンパス
	第2期 8月 2日～8月 5日	7月1日～7月17日	
高校受験講習会	7月28日～7月30日	7月1日～7月14日	
社会人のための 夏期研修講座*	7月31日～8月 2日	7月4日～7月18日(消印)	
免許法認定講習	7月25日～8月 5日	7月1日～7月14日(消印)	

※社会人のための夏期研修講座は、下記の Ⅰ・Ⅱ より各1講座、Ⅲ より2講座を選択します。

- Ⅰ** ●中学生・高校生のためのピアノ指導法 ●声楽指導法(スムーズなドイツ語歌唱のために～問題点とその対処法～、根拠のある分かりやすい発声法のヒント、教科書の中の名曲一発声法と歌唱法一)
●編曲法の実際(アンサンブル＜吹奏楽を含む＞を編曲するための基礎知識＜和声法、楽器法＞の習得とその応用)
●音楽科指導の実際(中学校を中心とした学習指導要領と指導の実際)
- Ⅱ** ●小学生のためのピアノ指導法
●器楽合奏(打楽器の基本的な奏法や指導法の研究を通してアンサンブルの楽しさを体験する)
●ソルフェージュ(音楽能力を育てるソルフェージュ)
●教材研究(ソナチネなどの小さなピアノ作品の音楽形式を分析研究し、作曲家からのメッセージを解き明かす)
- Ⅲ** ●合唱指導 ●カール・オルフの音楽教育 ●個人レッスン(ピアノ、声楽のいずれかを選択)
●パイプオルガンのたのしみ「ベル・エポックのオルガン音楽」
●音楽療法入門 ●楽器学入門(木管楽器の歴史)

※上記の他に開催される演奏会は、受講者全員を対象としています。

◎詳細は要項でご確認ください。

◎講習会要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室(TEL.03-3992-1125)またはウェブサイトにてお申し込みください。(要項は無料、郵送料は学園が負担します)

◎ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

平成27年度 入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学の各入学試験要項は、江古田キャンパスで取り扱っています。郵送をご希望の方(平成27年度受験対象者)には、無料でお送りいたします。本学園ウェブサイトの「資料請求フォーム」からご請求ください。お電話でのお申し込みは、氏名、住所、電話番号、および附属高校、大学1年次、大学3年次編・転入、大学院、別科の別をお知らせください。なお、夏期受験講習会を受講の方には講習期間中に配付します。

【お問合せ・請求先】

武蔵野音楽学園広報企画室

〒176-8521 東京都練馬区羽沢 1-13-1

TEL.03-3992-1125

本学ウェブサイト

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

編集後記

石毛宏典さんは、著書の中で「良い結果を出すにはプロセスが大事」とおっしゃっています。現役時代は常に不安だった、だから日々練習に励んだ…結果が“良い”ものであったことと言うまでもありません(編)。

ナチュラルトランペット

ブーヂィ & Co. 作 1916年 ロンドン 全長69cm

「花形楽器」として、時には華やかなファンファーレを吹奏し、時には甘美な音色でメロディーを奏でる楽器、トランペットは、その歴史においても、輝かしい王の威厳を象徴する楽器のスターであった。

現在のトランペットは、十字軍により13世紀頃にイスラムから伝わった直管のラッパから発達した。トランペットは、ヨーロッパでまず軍隊の楽器として導入され、ティンパニと共に自軍を鼓舞し、敵を畏怖させる楽器として使われた。さらにトランペットとティンパニは、宮廷軍直属に所轄され、祝典儀式などには欠かせない楽器となり、両楽器の奏者には音楽家のエリートとしての高い地位が与えられた。1548年、神聖ローマ帝国のカール5世がトランペット奏者を君主直轄に配置したことで、トランペット奏者の身分は突出して高いものとなり、特に「クラリーノ奏法」と呼ばれる高音域の高度な吹奏テクニックは、王侯貴族の前でだけ使用されることが許された。やがてこのクラリーノ奏法は室内楽演奏にも適応され、有名なバッハの「ブランデンブルク協奏曲第2番」は、このクラリーノ奏法を駆使した名人芸を披露するために作曲されている。

トランペットがオーケストラに定着した後も、この楽器には引き続き騎兵隊などの部隊を象徴する役割が

任せられた。写真の楽器は、そのような軍器として用いられたトランペットで、ピストンを持たない「ナチュラルトランペット」に、所属する部隊を表すのであろう表裏異なる模様の部隊旗が付けられている。今に引き継がれるトランペットの輝かしい

歴史を検証する資料といえよう。

(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)



江古田キャンパス楽器博物館休館のお知らせ

「江古田キャンパス楽器博物館」は、リニューアルオープンに向けて、現在休館中です。平成29年度完成予定の江古田新キャンパス内にリニューアルオープンいたします。なお、「入間キャンパス楽器博物館」及び「バルナソス多摩楽器展示室」は通常通り開館しています。休館中は、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

❖ 目次 ❖

標なき道をゆく 石毛宏典	1
卒業生インタビュー	5
偉大な先輩の背中を追って 堀 風翔	
音楽の万華鏡	7
バーニー博士の音楽旅行 寺本まり子	
海外音楽事情	8
コントラバスのグランドファーザー ツォルト・ティバイ	
MUSASHINO NEWS	11

- ❖ 始まりの季節の多彩な学園行事
- ❖ 江古田新キャンパスプロジェクト REPORT ③
- ❖ 松本美和子声楽公開講座
- ❖ MUSASHINO 掲示板
- ❖ 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々
- ❖ 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
- ❖ 平成26年度 同窓会全国総会開催のお知らせ
- ❖ 平成26年度 7月～10月の公開講座・演奏会のお知らせ
- ❖ 平成26年度 夏期講習会のお知らせ
- ❖ 平成27年度 入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖ 発行 ❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121（代表）

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111（代表）

バルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711（代表）

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2014年7月1日発行 通巻第110号